

平成26年度 学校評価表

※達成度は、目標値に対する評価値の割合。(評価値/目標値)

※評価 A(目標達成):100≦ B(ほぼ達成):70≦, <100 C(できていない):<70 ※学校関係者評価 A:達成できている B:概ね達成できている C:できていない

評価項目	中期経営目標	短期経営目標	担当分掌	評価計画				学校関係者評価							
				目標達成のための方策	評価指標	目標値(A)	資料	評価値(B) アンケートは1月統計値は3月	達成度(B/A)	評価	結果と課題の説明	評価	コメント		
学習指導	学力向上	望ましい学習習慣の形成	教務	①授業の始めと終わりの時間厳守とあいさつの徹底 ②学習規律の確立を目指した授業づくり	わたしは、授業に積極的に取り組んでいる。	90%	アンケート(生徒)	83%	92%	B	ある程度達成できているが、生徒・教員ともに「授業に対する姿勢」について意識を深めていきたい。	B	補習や積極的な個別指導など限られた時間のなかで工夫された指導が行われていると感じる。今後も教員間の連携により、考えさせる授業の展開と、生徒の家庭学習時間を含む意欲向上に向けて導かれることを期待する。「目標と目的意識」をもつことが大事です。年間指導計画にもとづく必要な授業時間の確保が難しい結果となっているようである。行事の精選や設定時間の工夫を改善されることを望む。		
				先生は、生徒の授業態度に対してはじめのある指導をしている。	100%	アンケート(生徒)	85%	85%	B						
				①適切な課題による家庭学習の習慣化 ②生活時間調査を利用した個別指導	わたしは、授業の予習・復習や検定試験の家庭学習に計画的に取り組んでいる。	70%	アンケート(生徒)	45%	64%	C				検定および定期試験前はある程度できているが、普段の取り組みが十分でない生徒が半数いる。主体的な取り組みへの意欲を高めるために、宿題の提示方法に工夫を施したが、結果として表れていない。「何のために勉強するか」という目標と目的意識を持たせるような工夫を考えたい。	
		①研究授業、公開授業等の実施 ②生徒による授業評価の実施 ③校内外の研修会、研究会の実施		あなたは、生徒に家庭での学習を促すよう、教科指導や課題を工夫したか。	90%	アンケート(教員)	61%	68%	C	「考えさせる授業」の展開を意識した授業を実践し、生徒も「考える」ことを意識するようになった。今後さらに「考える」ことを意識させたい。教員自身が、授業アンケート結果を活かそうとする意識が必要である。「授業改善」に向け、より生徒の実態に合ったものとなるよう教科会で議論し、共通理解のもと指導をしていきたい。					
		先生は、わかりやすい授業づくりに努めている。		90%	アンケート(生徒)	80%	89%	B							
		あなたは、授業アンケート結果に基づき授業改善に取り組んだか。		100%	アンケート(教員)	64%	64%	C							
	教育環境の整備	生徒の学習を支援する体制作り	教務	①学習内容(シラバス)の充実 ②授業時間の確保 ③評価標準の検討、改善 ④個別指導、補充授業の実施	あなたは、生徒の実態を把握しながら授業と評価を行ったか。	100%	アンケート(教員)	82%	82%	B	観点別評価に関して教科会で検討し教科主任会で情報を共有したが、深い議論をすることはできなかった。授業担当者会の場を増やし横の連携を密にし、各教科の責任で指導を行っていきたい。			B	教育環境は個人によってさまざまであるが、生徒の実態に即したさらなる検討を望む。
				①始業、終業時のあいさつの徹底 ②全校集会でのビジネスマナー教育の充実	ビジネスマナー指導は自分にとって役に立つ。	90%	アンケート(生徒)	81%	90%	B	「ビジネススマナー指導が生活の中で役に立っていることを認識できる指導等、内容の継続、改善を考えたい。				
	特色ある学校	商業教育の充実	商業	①全商検定1級3種目以上、基本情報技術者、日商簿記2級等上位資格の取得を目指し、きめ細かい指導を行う。 ②補習授業の実施	全商検定1級3種目以上取得者80名	80名	統計資料	67名	84%	B	全商主催検定は、目標値の対象が3年生だけだと67名、全校が対象だと105名となる。今年度の特徴は、情報処理科で「応用技術者試験」合格ははじめ経済産業省主催検定の合格が15あった。			A	「だんだんフェスタ」は繋がり合う力を強め、お互いを補いながら個々の力を最大限に発揮する生きた体験学習だと感じる。松商生徒としての誇りを持つことができるよう、生徒自身が意識・自覚できればと思う。「だんだんフェスタ」などで接する地域の人に対応する思いや行動は普段から心がけていないといけな。フェスタで来場していただいたお客様に町で出会った時にどうい対応をするのでしょうか。松商生徒としての意識・自覚を持ってほしい。
				①インターンシップの充実 ②「松商だんだんフェスタ」の充実	インターンシップは社会での仕事や役割を理解する上で役に立つ。(2・3年生のみ)	90%	アンケート(生徒)	91%	101%	A	インターンシップの実施方法について各学科の特性に合ったものに変更していく予定である。				
「松商だんだんフェスタ」は有意義である。				90%	アンケート(生徒)	86%	96%	B							
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	望ましい生活習慣の育成	生徒	①生徒会、教員と一緒に進んで行く登校指導 ②身だしなみ指導の徹底 ③礼法指導の徹底 ④自転車運転マナーの向上 ⑤情報モラルの向上	毎日きちんと学校に登校する生徒の割合(出席率)	99%	統計資料	98.9%	99.9%	B	出席については1年生の欠席が増加したが、学校全体としてこの3年間は遅刻も含め、良好な状況にあると言える。	A	とても静かで落ち着いて学校生活を送っていると感じる。気持ちの良いあいさつの伝統が変わらず守られていて大変喜ばしい。自転車マナーについては、生徒の意識にどこまで訴え、行為に結びつけられるかどうかの一点だと考える。情報モラルについては、スマホのネットパトロールをじっていることはとても良いことである。		
				非遅刻率	99%	統計資料	99.5%	100.5%	A	身だしなみについて生徒のアンケート結果は満足できる数値であるが、教員視点から見れば気になるところもある。生徒会役員とともに、今一度共通理解を図り指導にあたりたい。					
				わたしは、高校生らしい身だしなみを心掛けている。	90%	アンケート(生徒)	94%	104%	A						
	健康管理・美化活動	保健	①保健室利用者に対する適切な指導 ②教育相談(さわやか委員会等)の充実 ③清掃指導の徹底 ④ゴミの分別処理の徹底	あなたは、生徒との清掃活動において十分な指導・監督を行ったか。	100%	アンケート(教員)	86%	86%	B	保健室利用は1年生が多かった。9月夏休み明けの利用とインフルエンザ流行のため1月利用が多かった。(1クラス学級閉鎖) 頭痛・吐き気を訴える生徒はメンタル面での要因が多い。ごみの分別については家庭と異なるので戸惑う生徒もいた。					
わたしは分別や持ち帰りのルールを守ってゴミを処理している。			100%	アンケート(生徒)	89%	89%	B								

平成26年度 学校評価表

※達成度は、目標値に対する評価値の割合。(評価値/目標値)

※評価 A(目標達成):100≦ B(ほぼ達成):70≦, <100 C(できていない):<70 ※学校関係者評価 A:達成できている B:概ね達成できている C:できていない

評価項目	中期経営目標	短期経営目標	担当分掌	目標達成のための方策	評価指標	目標値(A)	資料	評価値(B)			評価	結果と課題の説明	学校関係者評価			
								アンケートは1月統計値は3月	達成度(B/A)	評価			評価	コメント		
人権・同和教育の推進	人権・同和教育の体制作り	人権・同和教育の体制作り	人権教育・生徒	①人権・同和教育への積極的な取り組み ②道徳教育への積極的な取り組み ③生徒理解と信頼関係の確立 ④教職員の人権意識の高揚	わたしは、松江商業での学校生活で、充実感や達成感を得ている。	80%	アンケート(生徒)	84%	105%	A	アンケート結果から、16%の生徒は学校生活で充実感や達成感が得られていない事が解る。約100人(16%)の生徒が何を求め、何が達成したいのかを知りうる方策を考え、対応する必要がある。効果が上がれば学校活性化につながることもなる。意識調査等を行い、深い悩みやいじめをうかがわせる回答があった場合、学年部でただちに生徒面談を行うようにしてしまっている。今後も生徒のサインに対して反応を返すことで達成度の向上を目指したい。また教職員に悩みを打ち明けやすい雰囲気作りについては更に努力の必要がある。根気強く対話の機会を設けることが最善最短の道と考えている。	B	生徒の成長によって悩みの事情も違い、難しい面もあるだろうが、日常の何気ない会話やともに作業をするなかで、傾聴ケアをしてあげてほしい。			
					あなたは、生徒へのルール・マナーの指導など、規範意識を向上させる指導をしたか。	100%	アンケート(教員)	89%	89%	B						
					学校では、面談などを通して生徒理解を行う努力がなされている。	90%	アンケート(生徒)	75%	83%	B						
					学校では、教職員に悩みなどを相談できる雰囲気がある。	70%	アンケート(生徒)	46%	66%	C						
進路指導	進路実現への支援	進路の実現	進路	①個に応じた進路指導 ②生徒および保護者への進路情報の提供と活用 ③ハローワーク、松江市との連携による求人開拓	在学中に就職先を内定する生徒の割合(内定率)。 ※3月10日現在	100%	統計資料	98.2%	98%	B	就職に関しては、今年度は希望者が多く、苦戦が懸念されたが、各方面からの支援と全教職員による諸指導により、多くの生徒が早期に希望の職種への内定を果たした。また、進学においては、多くが専門高校の特徴を生かした入試により良好な結果を出せた。就職未定者については、最後の一人が内定を得るまで支援を続けた。	A	生徒の希望の実現をよろしくお願したい。就職希望者が今年も増加したが、早期にまとまった求人を探したことは、地道な企業訪問や先輩方の活躍によってもたらされた財産である。今後、1・2年生にも大切に引き継がれることを望む。			
					在学中に進学先を決定する生徒の割合(合格率)。 ※3月10日現在	100%	統計資料	99.2%	99%	B						
					学校から提供される進路情報は、自分の進路を考える上で役に立つ。	90%	アンケート(生徒)	81%	90%	B						
特別活動	豊かな心の育成と情操の涵養	部活動の活性化	生徒	①各々の目標達成への支援 ②外部講師の招聘	部活動加入状況	90%	アンケート(生徒)	95%	106%	A	部活動加入率は、高い数字を維持している。本年度は高校総体女子総合3年連続優勝や男女総合準優勝を果たし、学校活性化につながっている。	B	読書は生徒が一人で自分と向き合う経験をした時、自然と欲するものではないだろうか。図書館が心穏やかなひとときを過ごせる学校のオアシスとして存在することも大切な役割である。豊かな心は学校だけでなく、各家庭においても育てる部分が多々ある。子どもと話をすることが大切であると感じた。			
					読書習慣の育成	図書	①読書センター、学習・情報センターとしての機能強化 ②朝読書への支援、読書活動の推進	わたしは、学習や読書のために図書館を活用している。	70%	アンケート(生徒)				30%	43%	C
								「図書館オリエンテーション」「館内展示」「図書館だより」は調べ学習や読書への関心を高める上で役に立つ。	70%	アンケート(生徒)				46%	66%	C
他人を思いやる心、感動する心の育成	生徒会活動の活性化	生徒	生徒	①全校生徒、教職員、一体となった学校(生徒会)行事への取り組み ②各種委員会の活性化	わたしは、クラスの委員や係、または生徒会の活動に積極的に取り組んでいる。	70%	アンケート(生徒)	65%	93%	B	評価値が低いのはアンケート実施時期の問題も考えられる。来年度は学園祭等の行事日程等を変更したが、積極的に取り組めるような企画を提案していきたい。	B	生徒が自分、他人の全ての人を思いやることができるようお願いしたい。			
					開かれた学校づくり	保護者との連携	総務	①保護者面談の実施 ②保護者とのこまめな連絡・連携 ③PTA活動の活性化 ④ホームページの定期的更新、メールマガジンの発行、PTA会報の発行	学校は、文書・ホームページ・メールマガジンなどを通じて情報を提供している。	80%	アンケート(保護者)	85%	106%	A	ホームページについては、来年度からリニューアルするため、わかりやすい画面を心がけていきたい。メルマガは好評を得ているが、登録率は約55%なので、もう少し認知度を高めていきたい。	B
地域との連携	生徒	①地域ボランティアへの積極的な参加 ②オープンスキャンパスの充実	学校は生徒の指導にあたり、家庭・保護者との連携・連絡を行っている。	80%					アンケート(保護者)	65%	81%	B				
			わたしは、今年度、ボランティア活動に参加した。(部活動や生徒会単位の地域清掃などの活動も含む)	40%		アンケート(生徒)	31%	78%	B							
信頼される学校	危機管理	危機管理体制づくり	生徒・保健	①教職員の危機管理に対する意識の高揚 ②危機管理に対する校内研修の実施 ③環境整備の充実	救急法の研修は、あなたにとって有益であったか。	80%	アンケート(教員)	91%	114%	A	毎年することで救急についての新しい情報を得られ、繰り返し実施することで自信をつけ行動に生かせる。今後も続けていきたい。	A	避難・防災訓練が、場所や状況を考えながら行われていることには感心し安心した。しかし、避難場所としての学校の備蓄対策など、地域で考えていかなければいけないこともある。情報モラルの研修は、今後も行ってほしい。			
					情報モラル研修は十分行われたか。	80%	アンケート(教員)	86%	108%	A						
					安全点検や清掃用具の点検・整備が行われ、環境整備が適切に行われたか。	80%	アンケート(教員)	91%	114%	A						